

# 2022年度 名古屋市予算案 不十分なコロナ対策、市民に負担増やサービス低下 将来の見通しもなく天守閣や大型開発にのめりこみ

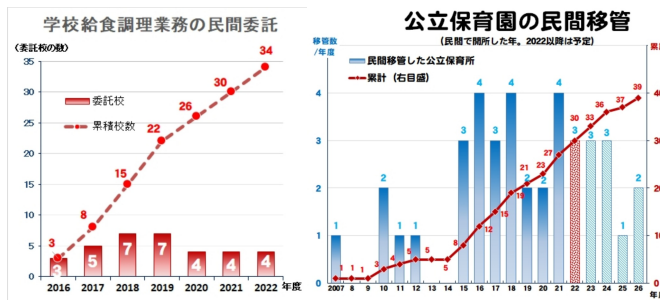
2月10日に名古屋市の2022年度予算案が公表されました。一般会計は過去最大の1兆3,794億円（4.5%増）、総額では0.5%減の2兆7,345億円です。

## PCR検査の拡大が不十分

新型コロナウイルス感染症の拡大防止にはワクチンと検査の拡大が重要です。保健所職員は8名増で、保健センターなどへの職員派遣によって看護師105人、事務職95人の配置や臨時職員で対応し、感染経路の追跡は熱心にやっていますが、高齢者施設をはじめ、いつでもどこでも誰でもPCR検査ができる体制には消極的です。

## 市民に負担や犠牲を押し付け 保育園の民間移管、小学校の給食調理も民間に

2022年度は小学校給食調理業務の民間委託をさらに4校拡大し34校に、市立幼稚園2園を廃止し21園に、公立保育所の4園で民間移管が始まり、123園あった公立園も90園になってしまいます北部療育センターも民間移管され、かつて5つあった市民病院は指定管理の緑市民病が市大附属病院化してゼロに。厚生院も特養は廃止し病院は市大附属病院化されます。市税事務所の3出張所も廃止（市税事務所に統合）され不便に。



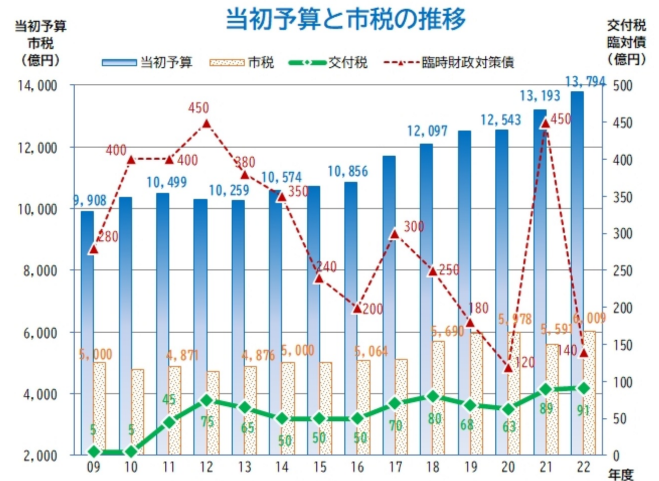
## 小学校の統廃合計画

住民の声を無視して高坂小としまだ小（天白）を統廃合する予算が計上されました。学校図書館への司書配置は20校増の要求に対し今回も5校しか増えません。

## 後期高齢者医療保険料の均等割値上げ

後期高齢者医療の保険料は、低所得者に負担を押し付ける均等割の値上げが提案されました。所得割は引き下げられ増すが、窓口負担が1割から2割に倍加するので低所得者に犠牲が集中します。

国保料（医療分）も一人平均で2,761円上がり91,536円になります。県の賦課率の段階的引き上げが保険料に値上げに結び付区やり方を改めなければいけません。



## 見通し不明の天守閣や名駅前開発に執着

天守閣木造復元にたいする文化庁の許可の見通しがなくまま実施設計費など3億円以上が計上され、そのうち約1億円は購入した木材の保管費です。

利用増の見通しもないまま中部空港第2滑走路に向けた調査費（調査）5,660万円が初めて計上されました。

リニア開業に関連して、名駅東側広場など18億円や地区や南地区へのアクセス改善など計画されていますが、リニアの2027年開業は見通せません。

## 市民との共同で前進

## 合葬式墓地、小学校4年生の3人学級など

市民と共に運動を進めてきた分野では、みどりが丘公園墓地に合葬式墓地を整備（共同12万円、個別20万円の永代使用料）、小学校4年生の35人学級、JR名古屋駅東海道線ホームのホーム柵と名鉄金山駅のエレベーターお設置、民間特養ホーム1か所増で124か所9250人の定員になります。保育所の待機児童対策で民間園新設5か所などで802人分を増やします。

## 後期高齢者保険料改定案（2022年度）

	2018年度 2019年度	2020年度 2021年度	2022年度 2023年度	前回からの 変更額・率
均等割額	45,379円	48,765円	49,398円	633円 +1.30%
所得割率	8.76%	9.64%	9.57%	▲0.07%
限度額（年額）	62万円	64万円	66万円	2万円
1人平均保険料 （年額）	83,781円	92,191円	91,117円	▲1,074円 ▲1.16%